

マツダ 車両実研部 芳村 大さん 平成13年度入学生



今回のOBは、マツダの車両実研部で働いておられる、芳村大さんです。

現在のお仕事

車を作るといっても全部一人でできるわけではなくて、いろいろな役割分担があります。

私の部署では、「こういう車を作ります」という風に、企画や設計の人が作ってきたものを評価して、良し悪しを判断するという仕事をしていきます。具体的な内容としては、案として持ってこられたものが、ちゃんと車として成り立っているのかということ

や、人が乗車してでこぼこ道を走った際のことを考え、「ここは良い、悪い」といったことを評価し、判断していきます。だめだったら、ここはこういう風にしてくださいと提案したりします。

この仕事を選んだきっかけ

今僕はロードスターという車に乗っているのですが、一言で言うとその車に魅かれて、それを作っているマツダを選びました。

マツダじゃなければダメな訳ではなくて、僕はホンダや、スバルも好きでした。乗用車でスポーツカーのようなものを作っている会社に行きたいなあ、と思っていました。しかしホンダは院卒の人しか採用してなくて、スバルは申し込みの期限が過ぎていました(笑)。

今の仕事のやりがい

今入社三年目ですが、これといって、はっきりとやりがいと言えるものはまだありません。

というのも、車両実研部で

は、企画や設計の人が持ってきた案を評価してOKやNGを出しますが、提案をして実際にものができた時に、「これは自分がやってできたものだ」ということが、あまり実感ができないからだと思います。

ただ、設計さんから「これを見てください」と言われて苦労して評価をして、設計さんにお礼を言われた時は、やりがいと言っているのかよく分らないですが、嬉しいですね。

設計さんともめることはありますか？

もめます。でもいい車を作りたいというのはみんな同じなので、どうにかしようとはします。

できないものはできないけど、じゃあできない中で何ができるのか、設計さんや他の部署も含めて話し合って解決はしていますが……それがどんどん泥沼化した時はすごくしんどいです。

仕事を通じて自分が成長したと思うこと

やっぱり、学生の時はまわりも同世代の人ばかりで話もだいたい合う人が多いじゃないですか。みんな同じようなテレビを見たり、同じようなアイドルを知っていたり。でも、会社に入ると、若い人からお年寄りまでいっぱいいます。その中でも同じ部署なら、普段から一緒にいるのでうまくいっていいけるようになるんですけれど、違う部署で年も全く違う人なんかはやりづらい部分もあります。こういう中で、人間関係を作っていくけるような力はついたかなと思います。

文章を書く力をつけるとか言うのは自分の努力だけでもできるけど、人と人とのつながりはこういうところじゃないし、仕事をしていく上では一番大切なことだと思っています。

就職活動はいつ頃から始めましたか？

三年生の九月頃からです。リクナビに登録して、夏休み

には大阪で開かれた企業説明会に行きました。合同説明会と言って、行ったら五、六件の説明を聞けるようなものでした。それとちよこちよ広島で説明会に行ったりしていました。インターネットで調べることできるけど、やっぱり直接話を聞いた方が一番わかります。

最初から車の会社で働こうと思っていたのですか？

最初はそうじゃなかったです。車は好きでしたが、情報数理のコースに行っていたこともあって、電気メーカーに行きたいと思っていました。プログラミングなんかもしてましたし。

でも、僕は体を動かすことができる職場に行きたいと思っていました。その点で、電気メーカーだと、毎日スーツを着て、常にパソコンの前に座っているということが嫌でした。実は電気メーカーも何社か受かっていましたが……。マツダの中でも、設計や企画という部署は全部、紙の上でやる仕事なので、そう

ではない車両実研部を選びました。

大学でやってあげれば良かったと思うこと

あえて言うなら、英語の勉強だと思います。他の会社と共同で開発することもある中で、その時は英語のやりとりも必要になってきます。ある程度翻訳してくれる人もついているので、全員が英語を喋ることが出来る必要はないのですが、英語ができた方が仕事は早いです。

案をもらって翻訳して、返事を書いてまたそれを英語に直してもらって——というふうにするよりは、案をもらってすぐに自分で意味が分かかって返事が書けるとだいぶ違います。

英語ができるということとは、スキルの一つとして評価されます。海外に工場や子会社のようなものがあれば、そういうところに行くにしても英語はできたほうがいいです。

職場で、まわりは工学部出身や院卒の人が多い中で、総科出身というのはどうですか？

やっぱり、院卒の人なんかは年も離れているし、よく物事を知っています。でも、すごく知識があっても、人と話ができないとどうにもなりません。逆に人と話ができればその人から吸収できるものはいっぱいあります。いろんな人と話をするのができれば、知識は補うことができると思います。自分ですぐできないことは多いけど、そこはまだ何といっても若いので、できなくて当たり前、くらいの気持ちで何でも挑戦してみるのがいいです。細かい物理化学の知識があることや、機械とか電気の知識があることよりも、大事なものはやっぱりやる気と生命力だと思います。

総科で受けた授業は役に立っていますか？

スポーツ科学系は結構受けました。本当にスポーツが好きなので、それはやっぱり自分のものになっていると思います。

学生に一言やアドバイス

学校以外でも活動をしてみたいと見えてこないことはあると思います。とにかく外に出てみてください。特に、総科以外の人との関わり合いはあった方がいいです。総科はやっぱり、やりたいことが決まらずに入ってきた人が結構多いと思うんですよ。もちろんそうでない人もいますが。でも他学部は学部をしぼっているだけあって、例えば教育学部なら先生になりたいという夢があるなど、もともと何か目標を持っていることがほとんどです。そういう人と一緒にいれば、また違った点が見えてきます。

僕からのメッセージとしては、限られた大学生活の中で、今という時間を精一杯楽しんでください、ということですね。特に就職については心配もあるでしょうが、あまり先のことを考えすぎても……とは思いません。

(担当 19生 平島 あゆみ)

中国放送 (RCC) 報道記者 藤原佳那子さん 平成15年度入学生



今回のOGは、今年四月に、広島地区唯一のラジオ・テレビ兼営局である中国放送に入社した、報道記者の藤原佳那子さんです。

現在のお仕事

私はRCCに一般職で入りました。研修期間は九月までです。五月から六月にかけては、報道センター（ニュースをつくるところ）で、取材に行つて記事を書いてニュースにするまでの仕事を研修します。

七月からは、ラジオで番組のディレクター研修で、実際

に放送するまでのものをつくつて、放送するところまでを担当することになっていきます。

この仕事を選んだ理由、記者になりたいと思った時期

叔父が新聞記者なので、なんとなく記者に憧れていました。

就活を意識し始めた二年の終わりが三年の頭くらいで、そういう方向で就活してみようかなと思つて就職活動を始めました。

記者になるために大学時代に何か特別なことをしましたか

就活は報道記者に絞ってしました。叔父とよく話をしたり、テレビ局の人など、そういう仕事についている方に話を聞いたりして、自分がやりたいことを明確にする努力をしました。特に「こんな勉強をした」というのはあまり無いですね。

先輩記者から学んだこと

番組を作つたりニュースを発信したりするのだから、自分が一番新しいものを知っておかなければいけないということです。時間が空いているときはとにかくいろんなところに行っています。

専門外のことについて取材するときに、総合科学部で色々な分野を学んだことが役に立っていますか

「あつ、なんとなく聞いたことある」ということがありますね。自分は分からなくても「友達がそんな話をしていました」という風に、取材相手と話したときにちよつとした話題になります。なんとなくでも聞いたことがあると話しやすいです。

テレビとラジオ

テレビは二十四時間でローカル局が作れる枠が決まっているんですね。TBSなど東京の大きな局から番組を受けているということがあ

ら、自分たちが作れる枠が決まっています。うちの会社だと自分たちで作る枠を約一九%目標にしている、結構大きいんですけど、それでも出来ることはすごく限られているんですよ。

ただラジオは、自社製作と言うのですが、自分たちが作っている番組が大体六七%を超えています。だからラジオでは聞いている人によりたくさん広島の話が伝えられます。そういう意味ではラジオがあるというのは伝えられることが大きいし、自分のやりたいことが出来ます。

これからの目標

記者にすぐなれるかどうか分らないのですが、私は児童虐待にすごく興味があつて、そういうことに取り組みたいと思つて入社したんですよ。そういうことであまり話したくない話じゃないですか。「事件が起きてから事件として報道される」のではなくて、事件になる前や終わった

後に、その話を本人や周りの人に聞いて、それを色んな人に知ってもらえるような、現状を知ってもらえるような番組を作りたいです。

普通だったら、入りこむことができないようなところに自分で行って、自分で取材して、それを伝えられるようなところまで持っていきたい。それはテレビのニュースかもしれないし、顔が出ないラジオのほうがいいかもしれない。これが今一番やりたいことです。

学生時代に打ち込んだこと

部活動（弓道部）に打ち込んでいました。本当に部活しかしていないというか、授業以外はずっと道場にいましたね。

広大の弓道部ってハードですよ

一度入ると抜けられない感じ（笑）。体育会の弓道部に入っていたので、「勝ちたい」という目標がありました。だ

から二年生、三年生の時は部活が忙しかったです。四年生になると生活が大きく変わりました。卒論をやりつつ、部活も、就活もがんばりました。

ちなみに卒論はどんなことをされましたか

社会心理学を研究されている坂田桐子先生の研究室でリーダーシップの研究をしました。部活動を対象にして、「リーダーがたくさんいた方が成績が上がるのではないのか、それならばどうしたらいいのか」というようなことをやりました。

情報行動科学プログラム（現：行動科学プログラム）

は厳しかったですか

二年生のときの実験は凄くきつかったし、時間は絶対厳守でした。あと、私は、平日に部活の試合と実験が重なることがありました。「実験を休んだら単位はあげない」と言われていたので、実験の後、一人だけ遅れて電車で試

合に行ったことがありました。

勉強・部活を通して身につけたもの

いつも「要領よくやらなきゃな」と思っていました。勉強や部活も両方やらなければいけないので、切り換えるしかないと感じていました。そのおかげで「こっちはこっちで終わらせて」というのが結構身についたというか、要領がよくなったと思います。三年生からは、割とプログラムがゆるくなるので、そこまできつくなかったですよ。

総合科学部の魅力

この間、総合科学部のOB・OGの人たちとご飯を食べる機会がありました。そのときに話を聞くと、卒業生が本当にいろんな職種に散らばっていることが分かりました。今私がやっている報道の仕事には、様々なところからの情報が欲しいし、色々なつながりも必要です。なので、

色々なところに友達がいるのは魅力だと思います。

後輩へメッセージ

大学生の間に色々なことに挑戦するということが本当に大事だと思います。大きな挑戦ではなくても、映画をたくさん見ておくというのでもいいし、色々な本を読んでおくというのでもいいし、色々なところに旅行をするのもいいと思います。とにかく知らないことを一つでも多く知るようにして欲しいです。

今の仕事だと、特にそういうのが重要だと思うのですが、社会人になったら、人と喋って打ち解けて、初めて仕事が出るので、色々な話題をつくれるような学生生活を送りたいと思います。

（担当 19生 桑田 雅美）